

第60回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年6月15日（木） 14：00－15：00
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者：
 - (1) 委員
葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、遠藤委員、後藤委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、行松参事官
4. 議事次第：
 - (1) 中間取りまとめ案について
 - (2) 準天頂衛星「みちびき2号機」の打ち上げ結果について
 - (3) 自動運転用高精度三次元地図（ダイナミックマップ）の事業会社化について
 - (4) その他
5. 議事：
 - (1) 中間取りまとめ案について
宇宙開発戦略推進事務局より中間取りまとめ案の説明を行った。その後、議論があり、委員からは以下の様な意見があった。（以下、○意見・質問等）

○内容については全く問題ない。3点コメントがある。1点目は、予算でここに書かれていることは全て非常に重要で、各省というか政府を挙げて、是非とも予算の確保をお願いしたい。2点目は、例えば資料1だけを見た時に、安全保障という言葉が明示的には書かれていない。Ⅱ宇宙システムの安定性強化等からそれを読み取るのが少し難しいと思う。資料を直す必要はないが、宇宙基本計画の3つの重点項目として、宇宙安全保障や宇宙民生利用、それから産業・科学技術基盤という3本柱があるのだということを最初に少し説明すれば、全体が見えるのではないか。3点目、資料1の宇宙ステーションのところで、初めて見た人がOP3とは何だろうと思う。オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラムという言葉を必ず入れた方がよい。（山川委員）

○大変バランスのとれた中間取りまとめになった。山川委員と同じような意見を持っており、安全保障というのが一つの大きな柱なのだが、未だ非常に割合が小さく、これから強化していかなければいけない。安全保障を入れた2つの大きな理由は、1つは安全保障で狙った非常に高いレベルの技術が、やがては民間や色々なところに降りてきて、産業にも繋がって行く。この流れを作っていくということで、それについての取り組みがこれから大事になっていく。今回はこれでよいと思うが、次回以降考えていく必要がある。安全保障を入れることによって、宇宙全体の枠を広げていくということも、宇宙基本計画を作った当初に議論した。宇宙全体の枠を広げるという観点で安全保障を取り込んで行くということを議論する必要がある。特に、利用に関しては随分色々バラエティーが出てきたが、利用というのはなかなか狙ってできるものではない。まずはその場を作って色々試して行くということしかない。そういう観点では、そういう場が出て来たのはよいことである。（中須賀委員）

○中間取りまとめの内容には賛同する。今後、これら一つ一つが非常に大きな意味を持ってくる大切な要素である。これを確実に実行して行くというフェーズに入ると思うが、もきちんとリソースを割きつつ、引き続きよろしく願います。（山崎委員）

○それでは、意見が尽きたようですからこれで終わりにしたいと思いますが、この文章につきましては、了承ということでよろしいでしょうか。（葛西委員長）

（一同同意）

○それでは、委員会として了承します。（葛西委員長）

（2）準天頂衛星「みちびき2号機」の打ち上げ結果について

宇宙開発戦略推進事務局より打ち上げ結果について報告を行った。

（3）自動運転用高精度三次元地図（ダイナミックマップ）の事業会社化について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。その後、議論があり、委員からは以下のような意見、質問があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○大変重要な試みと思う。准動的情報と動的情報という非常に短時間で変わっていく情報は、短時間に取得すると同時にそれを相手に伝えなければいけないが、そのメカニズムはどのようなものか。（中須賀委員）

●ダイナミックマップ基盤会社ができ、ここを中心に、例えば動的情報を提供する国

の関係機関、例えば警察、または道路管理者が考えられるが、どのくらいの情報量を
どういうタイミングで頂いて、車側にそれを伝えていくかというのは検討している
ところ。（事務局）

○伝えるのは、例えば携帯電話網などのイメージか。（中須賀委員）

●携帯電話網もあるし、後は警察が持っているインフラを使うというものもある。ま
たは道路事業者であれば、5.8ギガ対応を使うというDSRCの方式を使うという方法もあ
る。色々な方法を用いて、できるだけ瞬時性を上げて車に伝えるのが大事。地図作成
には色々な府省に協力頂いている。警察庁とかVICSセンターとか、そういったところ
から、特に動的情報は直接うまく配信できるような仕組みを共同で作ることを検討中。
（事務局）

○安全走行で、準天頂の衛星情報がある種補正、修正をするということだったが、定
点のカメラが認識して走る安全性に対して準天頂で補正することによって、どのくら
い安全性の割合が上がると理解すればよいか。（遠藤委員）

●最後は多数決になると思っているが、やはりカメラだと当然見通せるところしか見
えない。例えば坂道の向こうとか、特に下り坂でも坂がまた上がる場所が見えない
と聞く。要するに見えるところの限界がある。準天頂衛星でお互い位置が判って、通
信で相互の情報が全部把握できる。後ろから見えないところにある車がどう来るか
とか、坂の向こうはどうかとか、そういうものを含めて全体が管理できる。これは自動
車メーカーから聞いた内容。（事務局）

○他分野への利活用促進で、地図というものが例えば電線の張ってある地図である
とか、水道の張ってある地図やガスなどがばらばらで、それをまとめて、災害の時に判
断に使えるかという話を聞くが、そういったところにも応用がきくのか。（中須賀委
員）

●ダイナミックマップは基本的に地図基盤で、基本構成は一番下に3次元の地図があ
って、それに何を重ねるかということで、例えば、電線の情報が重なったり、地下の
パイプの情報が重なったりということになる。（事務局）

○それは将来的に、重ねるという作業も、この会社の事業の中でやっていく可能性が
あるということか。（中須賀委員）

●可能性はあるが、問題は高速道路と自動車専用道路までは視野に入っているが、一般道まで含めると距離が急に増えて、そういったデータを取得するのも相当なコストがかかってくるので、そこをどうするかというのが大きな課題。（事務局）

○海外展開もとの説明だが、情報の取得のコストもかかるということもあって、他の地域で同様の会社がすでにあるのか。（遠藤委員）

●準天頂の幅域であるアジア圏に関しては、未だないと理解している。世界的にはHERE、Tom Tomという会社がある。彼らのデータは、日本が備えようとしているDMPのデータよりも粗いので、HEREと手を結びつつ、これをグローバルスタンダードにすべく、アジア圏は日本側が中心で広めていきたいと企業としては考えている。（事務局）

以上